

平成17年度笠井中学校不審者対策防犯教室

—もしも授業中に不審者が入ってきたら…—

浜松市立笠井中学校 校長 小川 洋子
〒431-3107 静岡県浜松市笠井町1055番地 Tel (053)434-1079

I 学校の規模及び地域環境

1 学校規模

学級数 14学級（特殊学級2を含む）

生徒数 434名

教職員数 28名

2 地域環境

笠井地区は、東名高速道路が学区の南端を通り、インターチェンジが1969年に開設されてから、工場や運輸業の進出、商店、遊興施設が建設され、都市化が進んだ。現在も1997年11月の「かささぎ大橋」の開通、2005年の笠井環状線の整備に伴い、周辺各地との交流が盛んになっている。

上記のように、この笠井地区では大型のスーパーマーケットや商店などが建設され、にぎやかな場所、人の出入りが激しい場所が増えてきている。一方で、学区の中にも人通りの少ない道路や、静かな場所も存在する。特に夜は暗くひっそりとしている所が多い。通学する生徒一人一人が、不審者を警戒し、自分の身は自分で守る、という防犯意識を持つことが必要である。

地域としての防犯に対する取組は、保護者をはじめ、地域の方々がとても協力的であり、PTAを中心とした教職員との定期的な夜間パトロールや、青色回転灯装備車のパトロール、定期補導、『子供を守る家』への協力など被害防止に積極的である。

II 取組のポイント

1 事前・事後のアンケートによる不審者に対する対処法、防犯意識の確認・向上を図る。

2 浜北警察署員指導の下、代表生徒、教職員による『不審者対策ビデオ』の作成・上映をすることにより、学校生活の中で、不審者が侵入した時にどのような対応をすればよいか学ぶ。

III 取組の概要

1 取組の趣旨やねらい

学校は生徒にとって安心して学ぶことができる安全な場所でなければならない。しかし、近年、学校の安全を脅かす事件や事故が、現実には発生していることをよく耳にする。そのような事件や事故が起こるたび、いつ自分が被害に遭ってもおかしくない社会であると実感する。このような事件や事故の被害に遭わないように、事前の備えとして学校の対応について、適切な危機管理体制を確立し、万全の準備をしておくことが必要とされる。

そこで、今回の笠井中防犯教室では、「警察署員による、不審者への対処法や、とっさの防御法などについての講話や、代表生徒と教職員による『不審者対策ビデオ』の作成・上映などの諸活動をとおして、生徒、教師共に、学校への不審者侵入時の危険回避、不審者との遭遇時の適切かつ迅速な対処の仕方を学び、被害を最小限に抑えることができるようにする」というねらいをもって行った。また、事前・事後に不審者への対応、被害防止についてのアンケートを実施することをおして、一人一人の防犯に対する意識を確認し、高めることもねらいとした。

2 取組の内容、計画、方法等

(1) 事前アンケート

ア ねらい

防犯教室を行う事前指導として、生徒の不審者に対する防犯意識の確認をするために事前アンケートを実施した。今回の事前アンケートでは、学校内ではなく、学校外（登下校中など）の不審者対応についての意識を確認した。併せて、不審者に遭ったことがあるか、それはどのような状況で遭ったか、という内容の質問をすることにより、学区の不審者出没危険箇所等を把握することもねらった。

イ 対象

(実際のアンケート形式)

質問1 もしもあなたが、不審な人物の被害にあったら、その時どうしますか？a～eの中から選びなさい。(複数解答可)

- a 戦う。
- b 110番する。(警察に連絡する。)
- c 走って、近くの民家等に逃げ込む。
- d 学校に戻って、先生に報告する。
- e 大きな声を出して、助けを呼ぶ。

質問2 あなたは、もし、不審な人物、車やオートバイを見かけたら、その時、どうしますか？a～fの中から選びなさい。(複数解答可)

- a 車のナンバーを覚える。
- b 周りの大人に報告する。
- c 無視する。
- d その人の顔や格好などをよく覚えておく。
- e 学校に戻って先生に報告する。
- f 近寄って声をかける。

質問3 今までに不審者を見たことがある、または声をかけられたことがありますか？YESかNO、どちらかに○をつけてください。

YES/NO

質問4 質問3で、YESと答えた人に聞きます。それはどのような状況でしたか。次に記入してください。(いつ、どこで、どのような人が)

エ 考察

(質問1について)

もっとも回答が多かったのが『c』であり、次いで『e』や『b』であった。被害に遭わないためには、危険を感じたら逃げるといった基本的な防犯意識を多くの生徒が持っていることが分かった。

(質問2について)

『a』と、『d』という回答が大半であった。生徒たちは、知らない人や不審者を特定する手がかりをつかもうとする意識が高いことが分かった。

(質問3、4について)

不審者を見たり、声をかけられたりした生徒は、各クラスで2～3人、中には5人というクラスもあった。車に乗った不審者には無視したり、逃げたりしている。

今回のアンケートにより、学区の中でもこのような不審者が出没していたことが分かった。このことにより、教職員と地域の方々が協力し、校外のパトロールや青色回転灯装備車で見回りパトロールなどを強化するきっかけにもなった。

(2) 不審者対策ビデオの作成

ア 事前打ち合わせ

まず防犯教室を行う上で、どのような形態で行えば、不審者への対応法が全校生徒に伝わりやすいかについて、浜北警察署の署員と綿密に事前打ち合わせをした。

打ち合わせにより、不審者に襲われる場面を事前に代表生徒と教職員が演じ、その様子をビデオに撮影して、その不審者対策ビデオを上映しながら防犯教室を行うことになった。

不審者対策ビデオは、ポイントごとに映像を止めたり、スローで再生をしたり、少し前の状況に戻ったりしながら警察署員がそれぞれの状況の心構えや対応について解説や指導をすることになった。

イ 不審者対策ビデオの作成

防犯教室前日に浜北警察署からの2名の署員が来校した。署員の指導を受けた後、署員が立ち会い、本校の職員と生徒が不審者対策ビデオを作成した。

『浜北警察署員による指導の様子』



防犯担当職員が考えた最初のシナリオで一度とおして演じた後、実際に演じた生徒や教員か

ら、「不審者侵入を隣のクラスへ伝えるところで、校内への不審者侵入の連絡を受けた隣のクラスで、生徒が逃げずにその教室にとどまって、防御しながら待っているというのは、おかしいのでは。」と意見が出た。浜北署の署員の方からの助言もあり、『不審者がいる場所から少しでも離れる場面』、『連絡を受けた隣のクラスの教師は、その教室の生徒をまず逃がし、その後不審者のいる教室に行き、状況を確認する場面』、『もし危険な状況ならば教師はいすを持って防御する場面』を加えた。終盤では、『生徒が職員室に不審者侵入の連絡に来た後、教師による全校放送によって学校全体に危険な状況を伝え、生徒は避難するように促す場面』を加えた。最終的に次のようなシナリオになった。

不審者対策ビデオのシナリオ
『教室で授業中という場面設定』

- (1) 不審者Aが突然、教室の後ろから入ってくる。
- ↓
- (2) 廊下側の一番前の生徒Aは、前のドアから隣の教室へ連絡に走る。
- ↓
- (3) 教師Aが前のドアから生徒を逃がす。不審者が刃物を向けて教師に襲いかかる。教師は、近くにおいてある生徒用のいすや机で、防御する。
- ↓
- (4) 隣のクラスでは、不審者侵入の連絡を受け、教師Bが教室内の生徒に避難するよう指示する。その後教師Bは、不審者が侵入してきた隣の教室へ行き、状況を確認する。教師Aが不審者に対応しているところを見て、いすを持って足止めに加わる。
- ↓
- (5) 生徒Cが職員室に、不審者出現の連絡に来る。
- ↓
- (6) 職員室内にいた教師Cが、事前に決めてある不審者侵入に対する暗号の放送を全校に流す。その後、職員室にいる教師は、状況を確認するため、不審者の侵入した教室へ向かう。

『浜北警察署員による指導の様子』



(不審者侵入について指導を受ける職員と生徒)

ウ 不審者対策ビデオを活用した防犯教室
体育館で全校生徒が集まり、プロジェクターで防犯ビデオが上映された。

不審者対策ビデオの映像①

『教室に不審者が侵入し生徒が逃げる場面』



(まず、教師は不審者から離れるよう指示。生徒は前の入り口から逃げている。)

不審者対策ビデオの映像②

『教師がいすで不審者から生徒を防御する場面』



(椅子で身を守り、不審者との距離をとっている。)

不審者対策ビデオの映像③

『生徒が隣のクラスへ、侵入の情報を伝える場面』



(報告を受け生徒は避難。その教室にいた教師は、不審者のいる隣の教室へ行き、状況を確認する。)

不審者対策ビデオの映像④

『隣のクラスから来た教師も足止めに加わる場面』



不審者対策ビデオを上映しながら、警察署員の方の指導を受けた。悲惨な児童殺傷事件の教訓を踏まえ、今回の防犯教室では、本校に不審者が侵入した、という場面設定で行った。生徒が不審者に遭遇した場合は、安全を確保するために、『逃げる』ということが一番のポイントである。自分の身を守るために、正義感を出して不審者に立ち向かうのではなく、まずは安全な場所に逃げ込み、先生や周りの大人の指示に従うということが大切である。

また、当日は、万が一、逃げ遅れて不審者が襲ってきた場合にどのような対応をとればよいか、という内容の講義もしていただき、「教室の中で一番被害を軽減できるものは、いつも座っているイスであり、イスを使って武器を持った不審者との距離を取りながら、冷静で的確な判断と指示を

教師が出すことが大切となる。」との助言を受けた。

〈防犯教室の新聞記事〉



3 実践の成果

(1) 事前アンケートによる防犯への意識付け

防犯教室の事前アンケートにより、「実際に自分が被害に巻き込まれてしまった時に、パニックにならずに冷静な対処ができるようにするためにはどうしたらよいか」が課題として生徒に意識付けられた。学校としても防犯教室だけでなく、普段から防犯に対する意識付けの必要性を再確認することになった。

(2) 演じながらシナリオを修正

ビデオ撮影では、最初のシナリオを実際に演じ、演じた職員や生徒の意見を聞いたり、署員の助言を取り入れたりすると、危険な状況でどのような判断や行動をしたらよいか明らかになり、防犯ビデオの制作に生かされる事が分かった。

(3) 不審者対策ビデオによる防犯教室

今回の防犯教室で、生徒が防犯意識を高めたことはもちろんであるが、教職員も一緒になって浜北警察署員の講義を聴いて、改めて学校の

防犯体制を見直すことができ、教職員の防犯意識を高めることにもつながった。不審者侵入に限らず、学校内でトラブルが起きた場合は、教職員の連携と、一人一人の冷静な行動が必要になる。普段から、どのような行動をとるべきかを共通理解しておく必要があることが明らかになった。

(4) 事後の感想

「防犯教室を終えて、これからの自分の生活に、どう生かしていきたいですか。」という問いに対する生徒の感想である。

〔生徒の感想〕

- ・ テレビでよくニュースを見ていると、不審者に関する事件について見かけるが、今までは他人事のように思っていた部分もあった。今回の防犯教室で、自分のところにもいつ来てもおかしくない、と思うようになった。来てほしくはないけれど、もし実際に不審者が来て襲ってくるようなことがあったら、今日ビデオで見たことを生かして、自分の身は自分で守れるように、何も被害がないようにしたいと思う。(1年男子)
- ・ 万が一のことがあっても私は冷静には判断できないかもしれない。どのような行動をとったらよいのかも、よくわかっていなかった。でも今日の教室でビデオを見て、どのように対処をすればいいのかがわかったので、まずは先生の話と、普段から放送にしっかりと耳を傾けるようにしたい。(1年女子)
- ・ 不審者が来た時のことを考えて生活しなくてはならないと、今日の防犯教室で感じた。普段、毎日座っている椅子が、不審者からの被害を守るために、役立つものだとは思わなかった。今日学んだことを忘れずに、もし被害に遭ってしまった時には、冷静に行動したい。(2年男子)
- ・ もし、実際に学校に不審者が来るようなことがあったら、冷静に落ち着いた行動をとることが大切だと思う。また、落ち着いて先生の指示や放送などの情報を聞き逃さないようにすることが大切である。まずに逃げる、ということのを忘れず、もし本当にあってしまった場合に、冷静な行動をとれるようにしたい。(2年女子)

- ・ いつ不審者が自分の学校にやってもおかしくない、ということのを自覚させられた防犯教室であった。自分の身は自分で守らなければならないので、近くにいる先生や大人の指示にしっかりと従って、何よりも先に逃げるということのを忘れないようにしたい。万が一の時には、今日教えてもらったように、身近な椅子を使って、被害に遭わないように心がけたいと思った。(3年男子)

以上のような感想が大半であり、全校の防犯意識を高めることができた。今回の防犯教室において、最も伝えたいことであった「もし自分が不審者の被害に遭いそうになった場合、自分の身を守るために、まずは逃げる。」ということが全校に浸透した。劇形式で不審者の恐怖を伝えるよりも、今回のようにビデオに撮った映像をもとに、不審者の恐怖を伝えた方が、よりリアルに伝わった。生徒たちも、不審者に対する意識が強くなり、登下校中に不審者がいたら、その場から立ち去り、保護者や教職員に伝えるようになった。

4 今後の課題

(1) 計画的に防犯教育を継続

今回の防犯教室をとおして、不審者に対する危機対応を学ぶことができた。緊急時に生命を守るための対応や、とっさの防御法などは、生徒にとって非常に有意義であった。しかし、月日の経過と共に、不審者に対する危機意識が薄れていくことが予想される。今後も「不審者による事件はいつでも起きる可能性はある」という考えに立って、計画的に防犯教育を継続していきたい。

(2) 地域ぐるみの取組を推進

学区の付近で確認された不審者情報は、いち早く関係機関、教職員、生徒、保護者、地域住民に伝える体制を作っておかなくてはならない。不審者情報を共有することにより、不審者に対する警戒が高まり、被害防止につながると考える。

生徒が安心して生活できるよう、今後も学校と地域と警察の連携を強め、地域ぐるみの不審者対策を進めていきたい。